

2025/8月

TSUDOI

【増刊】GOOD銘柄 継続分析レポート(8月)

TSUDOIはブロックチェーンと仮想通貨に特化した情報配信サービスです。

本レポートコンテンツ

◆『狙い目：中堅銘柄』 継続分析ガイド

過去Goodマークを付与した中堅銘柄の継続分析

◆『大穴：新規銘柄』 継続分析ガイド

過去Goodマークを付与した中堅銘柄の継続分析

このレポートはTSUDOIの有料サービス、スタンダードプランの加入者専用の情報です。レポートの内容は個人的な使用のみを対象としており、商業的な利用は事前の許可が必要です。

レポートの読み方については、一覧に含まれる [「TSUDOI 分析レポートの解説」](#)をご覧ください。

継続分析レポートで中堅・大穴銘柄を調査する理由

中堅・大穴銘柄は、成長のポテンシャルが大きい一方でリスクも高いため、注意深い分析と継続的なモニタリングが重要です。これらの銘柄に特に注目し、直近の潜在的な成長機会を探るとともにリスクを管理する分析を行っています。TOP銘柄とは異なる視点から、潜在的な大きなリターンを狙うための情報を提供しています。

**とは**

TSUDOIリサーチチーム内では、関連ニュースから中長期的に注目を集め、価格高騰が期待できると予想した銘柄にGoodマークを付けています。

有料
レポート

過去週次レポート掲載 中堅銘柄 継続分析ガイド

『狙い目：中堅銘柄』 継続分析ガイド

調査・分析方法について

過去週次分析レポートにて高評価（Good）を付与した銘柄に関する継続調査。

この調査では、以下の点に着目して分析を行います。

1. 直近の注目ニュースの有無：過去高評価を得た銘柄が、その後も新たな注目を集めるニュースが発生しているかどうかを調査します。
2. 直近の重要指標推移：銘柄の市場でのパフォーマンスや他の重要な指標がどのように推移しているかを調査します。

これらの要素を総合的に評価し、投資家にとって有益な情報を提供することを目指しています。

2024年以降のGoodマークを付与した銘柄一覧

銘柄	レポート掲載日	銘柄	レポート掲載日	銘柄	レポート掲載日
Ethereum Name Service	2024年 1/12, 7/26	Taiko	2024年 6/7, 11/13	Ethena	2025年 2/7
Raydium	2024年 11/22, 2025年 1/24	Hyperliquid	2024年 12/20	Pyth Network	2025年 2/21
Virtuals Protocol	2024年 12/13	Ondo	2024年 6/7, 7/26, 8/9, 9/26, 11/1, 11/22, 12/6	Saros	2025年 4/4
Starknet	2024年 3/8	MANTRA	2024年 7/19	Helium	2025年 4/18
Manta Network	2024年 3/8, 7/5	Jupiter	2024年 8/2, 2025年 7/25	Stacks	2025年 4/25
Axelar	2024年 3/14	Aerodrome Finance	2024年 9/20, 2025年 6/20	Maple Finance	2025年 6/13
Biconomy	2024年 4/5	Worldcoin	2024年 11/1	Sei	2025年 6/27
Metis	2024年 4/26, 5/10	ai16z	2025年 1/17	Euler	2025年 7/11

※2023年 Goodマーク付与銘柄：ORDI, Celestia, Blur, Terra Classic

◆Hyperliquid、Ondo、Ethenaについては、中堅銘柄からTOP銘柄へ昇格しており、直近1カ月以内の週次分析レポートにてピックアップしております。

Aerodrome Finance : AERO（新規GOOD）

直近の注目ポイント：Coinbase統合でAERO流動性急拡大

8/10 Coinbaseが米国ユーザー向け（NY州除く）のメインアプリにDEX取引機能を導入し、UniswapやAerodromeなどへ直接アクセス可能になりました。これにより資金を移動せずに分散型流動性を利用でき、特にAerodromeでは流動性と取引高が大幅に増加。ユーザー基盤の拡大と流動性強化が進むことで、AEROの需要は中長期的に高まる可能性があります。

Maple Finance : SYRUP（新規GOOD）

直近の注目ポイント：利回り担保で資本効率改善、需要増

8/13、Maple Finance（SYRUP）はSolana基盤の取引所Drift Protocolで、利回り付きステーブルコイン「syrupUSDC」を証拠金として導入しました。これによりトレーダーは取引中でも7～8%の利回りを得られ、資金の効率利用が可能になります。供給上限は5,000万ドルで、普及促進のため10万ドルの報酬も用意。Mapleの運用資産は既に32億ドルを超え、年末までに50億ドルを目指しています。SolanaのDeFi拡大と連動し、中長期的にSYRUP需要の上昇が期待されます。

Virtuals Protocol : VIRTUAL（要注目）

直近の注目ポイント：Coinbase統合でAI取引支援拡大

8/12 Virtuals Protocol（VIRTUAL）は、Coinbaseが提供する一般向けの分散型取引サービス「Baseネットワーク上」に、自動で取引を助けるAI機能を組み込みました。これにより、投資初心者でも高度な分析や最適な売買判断を簡単に利用できる環境が整いつつあります。世界的に大きなユーザー基盤を持つCoinbaseとの連携は利用拡大を後押しし、中長期的にVIRTUALの需要増加につながる可能性が高いと考えられます。

Starknet : STRK（要注目）

直近の注目ポイント：Revolut発DEX移行でStarknet需要増

8/12、無期限取引（決済期限がない先物取引）を扱う分散型取引所「Extended」がStarknetへの移行を開始し、STRKに注目が集まっています。Extendedは既に日次約3.1億ドルの取引を持ち、Starknet上では多くの銘柄を対象に最大100倍のレバレッジ取引が可能。報酬制度もStarknetに集約され、利用者と資金の定着が見込まれます。さらに9/1には処理速度や手数料を改善する大型アップデートが予定され、DeFi基盤としての採用拡大とSTRK需要増加が期待されます。

Metis : METIS（要注目）

直近の注目ポイント：AI特化テストネット需要拡大期待

8/14、Metis（METIS）はAIに特化した分散型アプリ（dApps）を支援する「Hyperion Testnet」を開始しました。総額60万ドルの報酬で開発者を集め、4か月間のテストを通じてエコシステム拡大を狙います。ここでのAI活用は、例えばAIを使った自動取引やユーザーに合わせたサービス提供などで、従来のdAppsに新しい価値を加えるものです。将来的にテストネットから本番ネットワークへ移行することでMETISの利用価値が高まり、他のレイヤー2との差別化と中長期的な需要拡大が期待されます。

Pyth Network（要注目）

直近の注目ポイント：香港株データ提供で採用拡大期待

PYTHはデータをブロックチェーン上に移行するオラクル領域のプロジェクトで、7/30 香港株85銘柄のリアルタイム価格データをブロックチェーン上で提供開始しました。わずか0.4秒ごとに更新される高精度データは、株価に連動したデリバティブ（派生商品）や貸付サービスなど、新しい金融商品の基盤となります。これにより従来の金融市場（TradFi）との接点が広がり、アジア進出の重要な一歩となる見込みです。

Saros：SAROS（要注目）

直近の注目ポイント：トークン買い戻し（3,800万ドル）が需給と信頼を強化

8/7 には、Saros Foundationが100M SAROS（約3,800マンドル）を買い戻すプログラムを開始。今後四半期ごとにプロトコル収益の最大20%をトークン買い戻しに充てる方針を公表し、流通供給の絞り込みと価格の下支え、長期的な価値還元を狙った戦略です。この流れにより、需給改善と市場信頼の向上が見込まれ、中長期的な価格上昇に対して強い追い風となる可能性があります。

Helium：HNT（要注目）

直近の注目ポイント：Wi-Fi参入容易化でHNT需要拡大

8/1、Helium（HNT）は新サービス「Helium Plus」を発表しました。これは既存のWi-Fiルーターを利用して簡単にネットワークに参加できる仕組みで、従来必要だった専用機器の設置が不要になります。企業や店舗も低コストで参加でき、ネットワークに貢献した分だけHNT報酬を獲得可能です。参入ハードルの低下により利用者拡大と通信網のカバー強化が進み、分散型インフラ（DePIN）分野での普及が加速。中長期的にHNT需要の増加が期待されます。

継続分析による調査結果(継続分析で特筆すべき注目要因がなかった銘柄)

Raydium：RAY

直近の注目ポイント：LaunchLab 収益+TradFi流入で需要拡大

8/9 RAYはSolana上の分散型取引所として注目を集めています。特に、新しい資金調達サービス「LaunchLab」の急成長が収益を押し上げており、得られた手数料の一部をRAYの買い戻しに使うことで、流通量を減らし価値を高める仕組みが進んでいます。また、株式を暗号資産のように取引できる市場 「xStocks」と連携し、従来の金融機関の資金「TradFi」も取り込み始めました。さらに、Solanaの処理性能を大幅に高める新システム「Firedancer」の導入が予定されており、これにより中長期的にRAYへの需要拡大が見込まれます。

Manta Network：MANTA

直近の注目ポイント：Wintermute提携で流動性と信頼性強化

8/16、Manta Networkは太手の取引支援企業Wintermuteと提携し、750万MANTAを貸し出す形で市場の流動性を強化しました。これは返済が必要なローン契約であり、無秩序な発行ではなく健全な資金管理を示しています。取引が安定し価格形成が適切になることで投資家の信頼が高まり、アプリ利用やエコシステムの成長を後押し。中長期的にMANTA需要の増加が期待されます。

Taiko : TAIKO

直近の注目ポイント：2秒決済でTAIKO需要拡大へ

8/13、Taiko (TAIKO) は メインネットに「Preconfirmations」を導入し、取引の確定を素早く行える仕組みによってブロック生成時間を約2秒に短縮しました。これにより取引速度は従来の20～30倍となり、ユーザーは待ち時間の少ない快適な体験が可能になります。さらに「Pacayaアップグレード」により、出金にかかる時間の短縮やERC-20トークン（多くの暗号資産が採用する規格）の対応強化も進展。今後は段階的に完全な分散型運用へと移行する予定で、中長期的にTAIKOの需要拡大が期待されます。

Jupiter : JUP

直近の注目ポイント：5.8億ドルSOLステークで利回り強化

8/16、Solana上の分散型取引所（DEX）「Jupiter」は、流動性プールに預けられた約5.8億ドル相当のSOLを新たにステーキング（ネットワーク運営に協力して報酬を得る仕組み）に活用する方針を発表しました。これにより流動性提供者は通常の取引手数料に加え、ステーキング報酬も受け取れるようになり、JLPトークン（流動性プールの領収書トークン）の利回りが強化されます。この取り組みはSolana自体の需要増加や分散化の促進につながり、DeFi（分散型金融）全体の投資魅力を高める可能性があります。競合プロジェクトへの波及も予想され、中長期的にJUPトークンの需要拡大が期待されます。

※週次分析レポートにて直近1カ月でGoodを付与しています。

ai16z : AI16Z

直近の注目ポイント：ゼロ知識検証レイヤーなど基盤技術の開発が進むが影響は限定的

AI16Zは 公式Xアカウントが凍結されており、投資家が進捗を把握しにくい状況です。その影響もありトークン価格は停滞気味ですが、開発自体は継続中で、2025年7月にはGitHubのコミット数が12.7%増加しました。特にゼロ知識検証レイヤーなど基盤技術の開発に注力しており、開発者コミュニティでは一定の活発さを維持しています。ただし、情報発信の不透明さとのギャップが市場評価を抑えているのが現状です。

Sei : SEI

Seiの考察については、直近1ヶ月以内の週次分析レポートにて掲載しています。

Euler : EUL

直近の注目ポイント：収益モデル強化でEUL需要拡大期待

7/28、Euler DAO (EUL) は、安定した価値を持つ通貨（ステーブルコイン）や利回り運用商品（イールドボルト）に対し、新たに10%の手数料を導入する提案を投票にかけています。これが実現すれば、年収は約71万ドルから360万ドルへと大幅に拡大。得られた資金は開発やセキュリティ監査、エコシステム支援に使われ、プロジェクトの持続性が高まります。さらに、ETH市場への影響を抑えつつ収益源を分散させる戦略は健全な判断といえ、中長期的にはEUL需要の拡大と信頼性向上につながる可能性があります。

直近1カ月のGoodマークの継続調査にて、新しい注目要因が見当たらなかった銘柄となります。

進捗なし：Ethereum Name Service（フォロワー数3カ月連続増加）、Axelar（フォロワー数11カ月連続増加）、MANTRA（フォロワー数前月より増加）、Worldcoin（フォロワー数11カ月連続増加）、Stacks（フォロワー数12カ月連続増加）

徐々にフォロワー減少中：Biconomy

過去週次レポート掲載 大穴銘柄 継続分析ガイド

Goodマーク大穴・新規銘柄の継続調査

調査・分析方法について

過去週次分析レポートにて高評価（Good）を付与した銘柄に関する継続調査。

この調査では、以下の点に着目して分析を行います。

1. 直近の注目ニュースの有無：過去高評価を得た銘柄が、その後も新たな注目を集めるニュースが発生しているかどうかを調査します。
2. 直近の重要指標推移：銘柄の市場でのパフォーマンスや他の重要な指標がどのように推移しているかを調査します。

これらの要素を総合的に評価し、投資家にとって有益な情報を提供することを目指しています。

2024年以降のGoodマークを付与した銘柄一覧

銘柄	レポート掲載日	銘柄	レポート掲載日	銘柄	レポート掲載日
Xai	2024年 1/19	Saga	2024年 4/12	Morpho	2024年 12/6
Manta Network	2024年 1/19	Omni Network	2024年 4/19	NAVI Protocol	2024年 12/13
Ondo	2024年 1/26	Merlin Chain	2024年 4/26	Orca	2024年 12/13
Metis	2024年 1/26	BounceBit	2024年 5/17	Pangolin	2024年 12/20
Dymension	2024年 2/9	Taiko	2024年 6/7	Origin Protocol	2024年 12/6
Aevo	2024年 3/14	io.net	2024年 6/14	Velodrome Finance	2024年 12/20
ether.fi	2024年 3/22	Artificial Superintelligence Alliance	2024年 7/5	DeepBook Protocol	2025年 1/10
Ethena	2024年 4/5	LayerZero	2024年 7/5	Arcana Network	2025年 1/17
Wormhole	2024年 4/5	SaucerSwap	2024年 11/22	RedStone	2025年 3/14
				Succinct	2025年 8/8

※Manta Network、Metis、Taiko、Ondo、Ethenaは中堅銘柄として注目要因を考察しておりますので、新規銘柄のトピックでは割愛致します。

※2023年 Goodマーク付与銘柄：Arkham

Morpho : MORPHO (継続GOOD)

直近の注目ポイント：RWA担保レンディングで新たな成長局面へ

8/11、MorphoはPharos Networkと提携し、RWA（実世界資産）を担保にしたネイティブレンディングを開始しました。これによりPharos上で発行される資産やLP資金が即座に貸借市場へ接続され、資金効率が向上します。Morphoは既に90億ドル超の預かり資産を持ち、その仕組みをRWA分野に拡張する形です。今後は規制整備や信用評価モデルの普及により、機関投資家も利用できる信用市場が整備され、MORPHOトークン需要の中長期的な拡大が期待されます。

DeepBook Protocol : DEEP (新規GOOD)

直近の注目ポイント：グレースケールがDEEP信託設立、機関資金流入期待

8/12、米大手資産運用会社グレースケールは「Grayscale DeepBook Trust」を新設し、Deepbook Protocol（DEEP）を対象とする初の投資信託を開始しました。これにより機関投資家や適格投資家がDEEPトークンへ直接アクセス可能となり、Suiエコシステムにおける本格的な資金流入が期待されます。DEEPはSui上で中央集約型指値注文板（CLOB）を提供する基盤プロトコルで、既に累計取引額100億ドル超を記録。グレースケールによる信託商品化は、取引インフラとしての信頼性を高め、エコシステム拡大を後押しします。中長期的には、機関投資家の参入増加やDeFiインフラ需要の拡大に伴い、DEEPの需要と価値上昇が見込まれます。

Orca : ORCA (要注目)

直近の注目ポイント：ステーキング×買戻しで価値強化へ

8/6、Orca DAO（ORCA）は55,000 SOLを使ったステーキングと、24か月にわたるORCAトークンの買い戻し計画を提案しました。これにより市場に出回るトークン量を減らしつつ、参加者への報酬を強化し、同時にSolanaネットワークの安定性向上にも寄与します。買い戻したトークンはバーン（焼却して流通から消す）やエコシステム支援、xORCA参加者への追加報酬に活用される予定です。さらに、透明性を確保するため四半期ごとのレポート公開も実施。過去に行った大規模バーンに続く取り組みとして注目されており、中長期的にORCAの価値向上と利用拡大につながると見込まれます。

RedStone : RED (要注目)

直近の注目ポイント：Revolut上場でRWA基盤が一般層に拡大

8/13、RedStone（RED）は大手フィンテック企業Revolutに上場し、世界6,000万超のユーザーに利用機会を広げました。これにより一般投資家も、実世界資産（RWA）市場を支える価格配信サービス（オラクル）に直接参加できるようになり、REDをステーキングすることで報酬を得ながらネットワーク強化に貢献できます。RedStoneは既にBlackRockやApollo、VanEckのトークン化ファンドを支える実績があり、透明性と信頼性で高い評価を獲得。今回のリテール市場参入拡大は、中長期的にRED需要を押し上げる要因になると見込まれます。

継続分析による調査結果(継続分析で特筆すべき注目要因がなかった銘柄)

Wormhole : W

直近の注目ポイント：Mento統合でWormholeがFX基盤化

7/28、Wormhole（W）はステーブルコイン発行プロジェクト「Mento」の公式な相互接続（インターオペラビリティ）基盤に採用され、複数のブロックチェーンをつなぐ外貨取引（FX）市場の構築を支援します。これによりUSDCやcEURなど17種類以上のステーブルコインを40以上のチェーン間で即時に移動でき、国境を越えた決済や送金の利便性が大きく向上します。結果として、Wの中長期的な需要拡大が期待されます。

Omni Network : OMNI

直近の注目ポイント：大規模リブランディングで需要拡大

8/11、Omni Network (OMNI) は大規模なリブランディングを発表しました。名称やロゴなどブランドを刷新すると同時に、「分断されたブロックチェーンをつなぐ共通レイヤー」としての役割を前面に打ち出しています。従来は先進的なDeFi利用者に焦点を当てていましたが、今後は複数のチェーンをまたぐ資産移動やアプリ利用を、初心者でも一つの財布感覚で扱えるように設計。これにより、相互運用性の分野に特化した存在感を確立し、幅広いユーザー層から信頼を集めることを狙います。

LayerZero : ZRO

直近の注目ポイント：Stargate買収提案でZRO需要拡大

8/9、LayerZero (ZRO) はクロスチェーン取引を支えるサービス「Stargate」を約1.1億ドルで買収する提案を発表しました。現在のSTGトークンは廃止され、1 STG=0.08634 ZROで交換される予定です。統合後はLayerZeroの運営のもとで一体化し、ZROトークンの役割が広がるとともに保有者も増える見込みです。主要なクロスチェーン基盤を取り込むことで競争力を高め、中長期的にZROの需要が増加する可能性があります。

Succinct : PROVE

Succinctの考察については、直近1ヶ月以内の週次分析レポートにて掲載しています。

直近のGoodマークの継続調査にて、新しい注目要因が見当たらなかった銘柄となります。

進捗なし：Aevo（フォロワー数3カ月連続増加）、Ether.fi（フォロワー数4カ月連続増加）、Bounce Bit（フォロワー数前月より増加）、Saucer Swap（フォロワー数9カ月連続増加）、NAVI Protocol（フォロワー数前月より増加）、Pangolin（フォロワー数前月より増加）、Velodrome Finance（フォロワー数前月より増加）

徐々にフォロワー減少中：Xai、Dymension、Saga、Merlin Chain、io.net、Origin Protocol、Arcana Network

引用元：

本レポートにおけるデータおよび分析は、以下の情報源を基にしています。

- CoinMarketCap : <https://coinmarketcap.com/>
- CoinCarp : <https://www.coincarp.com/>
- Messari : <https://messari.io/>
- TokenInsight : <https://tokeninsight.com/>

注意事項

本レポートは、投資助言を提供するものではありません。提供される情報は、一般的な解説に限定されており、個別の投資判断に直接適用するものではありません。投資に関する最終決定とその結果について、当方は一切の責任を負いません。レポートの内容は個人的な使用のみを対象としており、商業的な利用は事前の許可が必要です。商業利用に関するお問い合わせは下記よりご連絡ください。

発行元：TSUDOI

メールアドレス：info@sigmainc.co.jp

ウェブサイト： <https://tsudoi-platform.co.jp/>